

第32回大口町地域交通推進会議（地域公共交通会議）議事録

日時 令和7年7月25日

午後 2時 開会

場所 大口町役場3階第1委員会室

◇出席委員

松尾幸二郎会長 鈴木和江委員 大竹伸一委員 前田一紀委員 古田政一委員（代理 濱田氏）
服部良一委員 吉田桂志委員 小川公子委員 中村祥委員 村上毅委員 原田光一郎委員
石屋義道委員（代理 藤原氏） 山下泰弘委員 小林裕之委員（代理 徳田氏） 松浦秀則委員
伊藤康喜委員 水野眞澄委員

◇欠席委員 松崎浩委員 酒井貞夫委員 三輪典幸委員

◇オブザーバー 江南市都市整備部都市計画課長 山本健太郎

◇意見参考人 小牧市都市政策部都市整備課長 大澤正人
小牧市都市政策部都市整備課交通政策係長 服部達也

◇出席職員 地域協働部長 岩崎義宏
町民安全課長 近藤和彦
町民安全課主任 大森正太郎
町民安全課主事補 仙田和也

◇議 事

- 1 開会 進行 町民安全課長 近藤
- 2 町長挨拶 公務により不在のため、副町長が代理で挨拶
- 3 会長挨拶 松尾幸二郎会長
- 4 協議事項（詳細別紙）
 - （1）大口町地域公共交通計画の策定について
 - （2）令和6年度大口町コミュニティバス事業報告について
 - （3）令和7年度大口町コミュニティバス運行の目的および目標について
 - （4）令和8年度こまき巡回バス再編に係る大口町への乗り入れについて
- 5 その他
 - （1）東海理化前バス停の移設について
 - （2）愛知県新モビリティサービス推進事業（MaaS 実証事業）について
- 6 閉会

◇協議事項

(報告事項)

(1) 大口町地域公共交通計画の策定について

説明者：事務局 町民安全課主任 大森

【資料1に基づく報告】

■地域公共交通計画策定の概要

- ・地域公共交通計画は、鉄道やバス、タクシーに加え、ボランティア輸送や病院送迎バスといった多様な移動手段を含めて、「地域にとって望ましい公共交通の姿」を描くマスタープランで、令和2年の法改正により、すべての市町村に対して策定が努力義務とされた。大口町でも、今後の高齢化や人口構造の変化を見据え、住民の暮らしの足を持続的に確保するため、本計画を策定することとした。計画は、外部コンサルタントに委託せず、町が主体となり庁内で一貫して進める方針である。今後は本地域交通推進会議において協議を重ねながら策定を進めていく。
- ・計画策定期間は、令和7年度から令和8年度の2年を予定している。
- ・まず令和7年度には、以下のような調査・準備を行う。
 - 6～9月：社会情勢・関連計画の整理、地域の現状把握
 - 7～11月：各種ニーズ調査を実施
 - 12～3月：調査結果に基づく課題整理と、翌年度の法定協議会設置に向けた準備
- ・住民アンケートは、第8次総合計画の策定にあわせて実施する。
- ・バス乗降調査（OD調査）は、職員がコミュニティバスの全便に一日ずつ乗車し、平日・休日を通じて全利用者の乗降状況を記録する。
- ・利用者アンケートは、先述の乗降調査とあわせてバス車内で手渡しにより配布し、回収は郵送とWeb併用で行う。
- ・このほか、地域懇談会の開催、交通事業者へのヒアリングなども行い、多角的に地域の声を収集する。
- ・令和8年度には、計画の骨格となる基本方針や目標の設定を行い、それを実現するための具体的な事業構想を検討。その上で素案を作成し、パブリックコメントを実施。最終的に地域公共交通会議で協議を行い、計画を取りまとめる。

■住民アンケート調査について

- ・第8次大口町総合計画の策定にあわせ、地域公共交通に関する設問も盛り込み実施する。調査対象は、18歳以上の町民から無作為に抽出した3,000人。回収方法は郵送とWebの併用。7月末に発送し、8月中旬までに回収を予定している。
- ・アンケートの内容は、外出の実態や、公共交通の課題認識、利用目的、財政負担に関する意識など。また、運転免許証の有無や車の保有状況、免許返納の意向等を訪ねるも設問も含め、今後の公共交通の役割拡大を見据えた設計としている。

■バス利用者を対象としたアンケート調査について

- ・住民アンケートとは別に実施。バス利用の実態、満足度、改善点を把握することが目的。令和7年10月にコミュニティバス全便に職員が乗車する際に車内で配布し、郵送とWebの併用で回収予定。
- ・アンケート項目は、バスの利用頻度、往復利用しない理由、代替手段の有無、今後のニーズなど。乗降

データと照らし合わせて具体的な施策の検討に活用する。

- ・アンケートは、現在作成段階であるため、委員からの設問内容への意見を募りたい。

＜質疑応答＞

【徳田氏（愛知県バス協会 小林委員 代理）】

コンサルタントに頼らずに町主体で策定するのは非常に素晴らしい。地域のことは地域の方が一番よくわかっているので、ぜひ良い計画を作っていただきたい。

資料の中で気になったのは、アンケートが基本的に町民向けに作成されている点。住民アンケートは総合計画に関わるため致し方ないが、利用者アンケートについては、町外から訪れる方の利用も想定すると良い。たとえば問2では郵便番号の下2桁のみの選択肢になっているが、もう少し幅を持たせるとよいのでは。アンケート全体としても設問数を絞った方が回答しやすくなる。配布時に配布者が日付や路線名を記入するだけでも、あとから整理しやすくなると思う。

また、さまざまな立場の人が複合的にバスを利用していることを踏まえ、自分が回答者だったらどう感じるかを想像しながら設計していただくと良いと思う。

→【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

問2は、自由記述にするか、町外の方の方向けの選択肢を追加する形が望ましい。また、問9の利用目的には「観光」など、来街者の視点を加えてもよいかもしれない。

問11では乗り継ぎ前後の移動手段を聞いているが、問12では乗り継ぎ「先」だけを聞いているような印象を与える。設問の表現を見直すとより分かりやすくなるだろう。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

アンケートと地域懇談会について、それぞれ2点ずつ伺いたい。

まず一点目。住民アンケートの3,000人抽出という数字が当初多いのか少ないのか判断できなかったが、江南市でも人口94,000人に対して同数で実施と聞いた。大口町の人口規模を考えると、十分な数だと認識している。

2点目は、住民アンケート問42および利用者アンケート問20のいずれにも「税金を使って」という文言がある点。もちろん、税金によって支えられているという事実を認識した上で選択してもらうことに関しては、これは大切な文言だと私も理解している。

しかし、バスに限らず大口町の住民サービスは、民生費にしても教育費にしてもあらゆる面が税金で賄われており使い方としては同じだという認識である。バスを利用している方の受け止め方と、全くコミュニティバスに関心がない、使っていない、いつも空気を運んでいるなどと思っている方との、この「税金を使って」という文言の受け取り方がずいぶん違うのではないかと懸念している。どちらの意見も重要だと思うが、「税金を使って」という文言は必要なのか。町としての考えを伺いたい。

→【事務局 大森】

コミュニティバスに税金が使われていることは当然ではあるが、それをあらためて認識した上で回答してもらう意図がある。また、住民と利用者の両方に同じ設問を設けることで、回答の傾向の違いを比較する狙いもある。「税金を使って支えられている」という表現は、できれば残したいと考えている。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

アンケートの最後に空白の自由記述欄を設けられて、「あなたが大口町に望む公共交通の移動手段は何ですか？」というような設問を入れてはどうかと個人的に思っているが、いかがか。

→ **【事務局 大森】**

自由記述欄の設置は前向きに検討したい。先ほどもご指摘があったように、設問数を抑えたいという考えとのバランスもあるため、一度整理して判断したい。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

地域懇談会の開催について、資料には「自治組織ごと、もしくは地区ごとに開催」とあるが、自治組織で開催する場合、北・南・中の3地域に分けられる。しかし、個人的には11地区それぞれでの開催が望ましいと考えている。

回数が増える分負担も大きくなると思うが、例えば老人会やサロン、民生委員のようなできるだけ小規模コミュニティの意見を拾える形が望ましい。江南市の懇談会では、参加者の多くがマイカー利用で、公共交通に不自由を感じていない人ばかりだったと聞く。開催回数、地域範囲、参加者募集の方法など、現時点での方向性があれば伺いたい。

→ **【事務局 大森】**

地域懇談会はニーズ調査の一環として検討しているが、開催方法や日程についてはまだ具体化していない。地域自治組織や地区を所管している地域協働課とも調整中だが、まだ詳細には詰められていない。小規模コミュニティの方が声を拾いやすいという点は理解しているので、ご意見を参考にさせていただきたい。

→ **【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】**

職員だけの開催は大変だと思うので、バスサポート隊として協力できることがあれば、お手伝いさせていただきたい。

【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

地域懇談会は開催する時間帯によって参加者が左右される。働いている世代を対象に夕方開催することが多いが、逆にその時間帯はバスがなく、会場に車でしか来られないこともある。

場所の選定も重要で、バスが通らない公民館などでは、自然とマイカー利用者が中心になってしまう。

全てに対応するのは難しいが、こうした点への配慮は必要である。

また、地域懇談会小規模で開催する方が、参加者の声を聞きやすい。さらに、今回の調査を機会に地域でバスをどう活用していくのかを考える機会にしてほしい。行政がリーダーシップを取ることは当然だが、行政だけでやるのではうまくいかない。各地域が行政のやっている事業にどうやって協調していくのかを考えるのが非常に重要だと思う。例えば、他の地域では、地域のバス会のようなところでコミュニティバスに乗ってどこかに行こうというイベントを企画したり、誰かがコミュニティバスを使ってこういう利用してみたらすごく楽しかったということを新聞や回覧板にして配布したり、バスサポート隊がやっているようなことを地域主体でやる仕組みがあったりする。

今回の地域懇談会が、そういった広がりにつながるような形でもいいかと思う。今回の調査の目的をもちろん第一に考えれば良いし、必ずしも今回それがすぐに繋がらなくてもいいと思うが、そういった視点

もあるので、その辺りも踏まえて規模感等を考えていけると良い。

アンケートの 3,000 人という人数は、統計的には全体の母数よりも回収数が重要。集まった件数が一定程度の量があればいいが、自治体のアンケートだと回収率は 20%程度かと思うので、600 件程度を見込む。

大事なのは地域によって利用やバスに対する考え方が違うので、大口町には大きく三地域あるが、すごく少なくなる地域があると偏ってしまうので、あまり偏りがないようにしたい。今回は公共交通のアンケートだけではなく、総合計画のアンケートのため、その辺りの部分はうまく調整されていると思う。アンケートは地域別に分析することが多いが、少なくとも 100 件はあると分析しやすい。例えば集まったのが 50 件では、利用目的の分析をしたときに 1 件の違いが 2%に相当するため、地域ごとに少なくとも 100 件はあるといいという感覚で見ると良いかと思う。

税金の話は非常に微妙なところであるが、いろんな調査でこういった文言を入れたり、もっと具体的に税金で「1 人当たりになると公共交通に対していくら負担している」など具体的に示したりする。これを書かないと、とにかく全部大事だから維持してほしいと全ての項目に回答をしてしまう。そういった考え方があってもいいと思うが、そういう回答がほとんどになってしまうと本当に聞きたいことや、地域の人が考えているバランス感みたいなのが、うまく聞き取れなくなるため、維持してほしい部分とコストとのバランスを取るためにこういった文言を入れる。事務局もそのような意図を持って記載されていると理解している。

【松浦委員（あおい交通株式会社）】

利用者アンケートで運賃についての設問があるが、今後はキャッシュレス化の流れが進むと考えられる。3 年後ぐらいには高齢者もキャッシュレス化に対して抵抗感が薄れてくるのではないか。機器を導入には経費がかかるが、統計の取り方も非常に簡単になるしお金の収受も楽になる。当社でも 7 月 2 日から空港バスでクレジットカードのタッチ決済を導入したが、初日から 200 人近い利用があった。3 年後を考えると、キャッシュレス化の方向性も検討されたいかがか。

→【事務局 大森】

公共交通計画は 2 年間かけて策定するものであり、その先も見据えた設問も入れていかないといけないと思っているため参考にさせていただく。

→【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

「キャッシュレス化を望むかどうか」という設問をアンケートで設けるのも一案だと思う。

【原田委員（愛知運輸支局）】

今後、この会議が公共交通計画策定に向けて衣替えする際、委員構成を見直す必要があると思う。現在、バス協会が入っているが、タクシー協会やタクシー事業者が含まれていない。町内に営業所はなくてもタクシーの利用はあるため、意見を反映できる体制が必要ではないか。あおい交通がタクシー事業も持っているので、そういった意味でコミュニティバスの受託者だけではなく、タクシーとしても反映できるのであればいいが、そうでないならば会議の衣替えに際してタクシー協会やタクシー事業者の参画を検討していただきたい。

→【事務局 大森】

来年度の法定協議会設置に向けて、委員構成の見直しを進めている。現時点では、タクシー協会や、県道・町道の道路管理者などの関係者が未参画のため、今後整理を進める予定である。

【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

会議のスケジュールについて、令和7年度は今回の会議と、1月に第2回を予定。令和8年度は通常2回のところを3回開催する計画。

計画素案の策定は令和8年度だが、できれば令和7年度の1月の会議の段階で、どんな方向性を持っていくのか、大口町の交通の形・ネットワークを具体的にどのように想定していくのかを出せると良い。そこでしっかり議論をした上で、それに向けた素案を作成していけると良いかと思う。策定期間は2年あるが、12月のパブコメの段階ではかなり完成度の高い内容が求められるため、令和8年度の7月の会議だけでは少し物足りないと思う。令和7年度の1月の会議ではアンケート調査結果の報告をするかと思うが、先ほど言ったような町内の公共交通の大枠のような部分の事務局の想定を示していただくと良い。

→【事務局 大森】

委員の皆様にお諮りする機会が限られているため、次回の1月の会議では、調査結果や課題整理を踏まえて、基本方針案をお示しできるよう準備を進めたい。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

松尾先生に伺いたい。最後の方に小牧市からの報告もあるが、犬山市でも「わん丸くんバス」をさくら病院からドンキまで延伸してほしいという住民の声があると聞いた。こういった広域で小牧市や犬山市と連携しての取組も公共交通計画の中に盛り込むものなのか、それとも別ものなのか。

→【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

それは入れると思う。ただし、連携先の相手としっかり水面下で調整をした上で入れていくということが前提になる。非常にありがたい意見をいただいたので関連して、例えば今犬山市のバスが大口町内に乗り入れているが、コミュニティバスのマップにはその情報が載っていない。時刻表にもそうした情報が載っていると、大口町からコミュニティバスを使って犬山市に行くとかというのも時刻表を見ればわかる。そこに目的があるかどうかかわからないが、少なくともバスは乗り入れている、ここで乗り継ぎをするのが一番良いということが載っていると単に町内だけではなくて町外に出るときにも使うことができる。ネットワークで連携しつつ、こういった情報提供でもしっかりとそれを活用していけるような形にしていくのが非常に大事である。その辺も計画の中に記載していくというのは必要かと思う。次の1月のときにはアンケートの結果がまとまってきて、それをもとに大枠の方針を示してもらえるので、そのときにしっかり議論していければと思う。

(報告事項)

(2) 令和6年度大口町コミュニティバス事業報告について

説明者：事務局 町民安全課主任 大森

【資料2に基づき報告】

■事業の目的・目標

- ・本町には民間交通路線が存在しないため、町が主体となって住民の「暮らしの足」を確保する目的でコミュニティバスを運行している。令和6年度も、住民の利便性や地域の活性化を図りつつ、効率的な運行に取り組んだ。

■利用実績と収支

- ・年間利用者数は101,067人で、目標の10万人を上回った。運賃収入は1,203万円。目標比105%となった。
- ・広告収入は121万円と前年に比べて大きく減少した。これは従来のバス停広告が、道路占用の関係で継続不可能となったことが要因である。現在は、新型バス停広告への切り替えと広告募集を進めている。
- ・令和6年度の町の実質負担額は約6,039万円であった。

■令和6年度の主な取組

- ・「コミュニティバスサポート隊」との協働により、季節に合わせた車内の飾りつけや意見交換の場を設け、町民へのPRを実施した。
- ・コミュニティバスを利用するきっかけになることを目的とし、令和6年11月3日（日）に「1日無料DAY」を実施。313名の利用があり、前後の日曜日と比べて3倍の利用者数となった。
- ・「1日無料DAY」にあわせてアンケートを実施し、313名中131名から回答を得た。寄せられた意見は、今後のコミュニティバス運行の参考とさせていただく。
- ・今年度の「1日無料DAY」は11月1日、2日の2日間実施予定である。
- ・例年通り、町内の全小中学校でコミュニティバスに関する授業をおこなったほか、高齢者向けの「マイ時刻表」の作成が27件あった。また、町内のイベントや商業施設においても啓発活動を実施した。
- ・利用者数は徐々に回復傾向にあるが、大幅な増加には至っていない。今後は現状を維持しつつ、さらなる利用促進を図っていく必要がある。また、広告収入や支援金の確保、費用対効果のバランス、バスの在り方そのものの見直しなど、持続可能性をどう確保するかが今後の大きな課題である。

■1日無料DAY利用者アンケート結果

- ・全体の約2割が「初めて利用した人」で、「1か月に1回以下」の人だと5割以上となり、普段利用していない層へのアプローチにつながった。
- ・意見は、「便利」「運転手が親切」などの前向きな評価の他、「時刻表がわかりづらい」等の意見も寄せられた。特に「便を増やしてほしい」要望が多数寄せられた。

＜質疑応答＞

【徳田氏（愛知県バス協会 小林委員 代理）】

昨年 11 月 3 日の無料DAYについて、子どもの利用者数が非常に多くなっている。おそらく全体で利用者が増えた中には、子どもに加えて家族や保護者の利用もそれなりに含まれていると思うが、この日にイベントなどがあったのか。あるいは「この日に 1 日無料DAYがあるからバスで来てね」といった呼びかけのような取り組みがあったのか。

→【事務局 大森】

1 日無料DAYは大口町の「ふれあい祭り」という町のお祭りに合わせて毎年実施している。そのお祭りに行くためにバスを利用するケースもあると思うが、先ほどの報告にもあったように、私たちは毎年、町内の全小学校でコミュニティバスに関する授業を行っている。その授業の中で、「11 月〇日は 1 日無料DAYだから、家族と一緒に乗ってみてね」といったPRもしており、そうした呼びかけを通じて、子どもたちがバスに関心を持ち実際に乗ってくれているのだと思う。

【徳田氏（愛知県バス協会 小林委員 代理）】

10 月に比べて、11 月 10 日と 17 日に少し利用が増えている。無料DAYをきっかけに乗ってもらうことで、その効果が少しずつ積み重なり、利用者全体が増えていくと良い。ところで、今年は 2 日間の開催と聞いたが、これはお祭りも 2 日間開催されるということか？

→【事務局 大森】

そのとおりである。お祭りは例年 2 日間開催しており、これまではそのうち 1 日だけ無料DAYを実施していたが、せっかくなら 2 日間とも実施しようということで、今年は両日を無料DAYとする予定である。

(承認事項)

(3) 令和7年度大口町コミュニティバス運行の目的および目標について

説明者：事務局 町民安全課主任 大森

【資料3に基づき説明】

■運行の目的について

- ・大口町には民間による公共交通路線がないため、日常的な移動を自家用車に頼らざるを得ない状況となっている。そのため、自家用車を運転できない人も含め、誰もが安心して移動できる「暮らしの足」を確保することが、本事業の目的である。特に、急速に進展する高齢化社会への対応として、交通弱者の移動手段を確保することが重要。あわせて、通勤・通学時間帯の交通混雑の緩和、さらには地球環境への配慮として、環境負荷の低減も目指している。また、町内の商業施設や公共施設を結ぶことで、地域経済の活性化やまちの賑わいづくりにも貢献していく。

■令和7年度の目標について

- ・令和7年度は、地域公共交通計画の策定に向けた初年度となる。住民の移動ニーズの把握や将来の交通のあり方を検討するため、調査・分析を重点的に行う。また、住民の多様な移動ニーズへの対応、地域との協働による運行体制の強化、事業者との連携強化とコスト抑制の両立、利用者拡大と広報活動の充実、以上4点にも取り組む。
- ・数値目標は、年間乗車人員10万5千人、運賃収入1,240万円などを設定。各ルートの便ごとに1日あたりの乗車目標を定め、実績に基づいた現実的な計画としている。
- ・利用促進や将来施策に向けた具体的な取組として、小学校でのバス紹介授業、高齢者への「マイ時刻表」配布、バスロケーションシステムの普及・活用促進、地域公共交通計画に向けた調査・分析の実施を行い、これらの取り組みを通じて、持続可能な公共交通を実現していく。

<質疑応答>

【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

数値目標の考え方についてだが、基本的には先ほどの報告資料にあった昨年度の実績を維持するという方針でよいのか。

→【事務局 大森】

昨年度の実績を維持する形で数値を設定している。

→【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

広告収入について、昨年度の実績は120万円だったが、今年度の目標は145万円に少し増加している。これは、先ほど報告があったようにバス停広告の仕組みが変わった中で、広告収入を積極的に伸ばしていきたいという事務局の方針が反映されているという理解でよいのか。

→【事務局 大森】

今年度の目標である145万円のうち、約100万円はバス車体のラッピング広告による収入で、残りがバス停広告による収入である。昨年度の実績が121万円だったことから、今年度はバス停広告の分を少し増やす方向で目標を設定している。

【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

公共交通計画に関して、冒頭でも言及があったが、計画を策定すれば、それに基づいて毎年度の目標や考え方が定まることになる。これまでは大口町において計画が存在していなかったため、毎年度このような形で当該年度の目標を決め、最後に実績を報告するというサイクルを毎年繰り返してきた。今年度はまだ計画が策定されていないため、従来のやり方で今年度の目標と実施方針等が、この内容で良いかどうかを委員の皆さまにご判断いただきたい。

<承認結果>

全会一致で案のとおり承認

(承認事項)

(4) 令和8年度こまき巡回バス再編に係る大口町への乗り入れについて

説明者：小牧市都市整備課 課長 大澤、係長 服部

【資料4に基づき説明】

■こまき巡回バス「こまくる」について

- ・こまき巡回バス「こまくる」は、小牧市内の交通空白地域の解消や公共施設の利用促進を主な目的として運行されているコミュニティバスである。道路運送法に基づく一般乗合旅客自動車運送事業の路線定期運行の形態で、小牧市内を23路線・17台で運行している。
- ・おおむね5年ごとにルートやダイヤの再編を行っており、現在、市民や利用者のニーズに加え、公共交通を取り巻く社会情勢や現行路線の利用状況を踏まえて見直しを進めている。次回の再編は令和8年4月を予定しており、運行目的を「市民の移動手段の確保」に再定義した上で、今後も小牧市民の日常の足として利用される公共交通機関を目指している。
- ・今回の再編では、市内の交通空白地域のさらなる解消を図るとともに、「こまくる」間の乗り継ぎの利便性向上を目的に一部ルートの変更を予定している。この見直しにより、3路線が大口町内へ乗り入れる計画である。
- ・3路線のうち、2河内屋線の路線の新設およびバス停の新設、新設する路線で使用する車両の最大値は協議事項として取り扱う。また、2河内屋線の既存路線へのバス停の新設および運行ダイヤの変更、H2三ツ渚北線の既存路線へのバス停の新設および運行ダイヤの変更、H3村中線の運行ダイヤの変更については報告事項とする。

■協議事項について

- ・今回の再編では大口町との連携を強化するため、既設路線の廃止と併せて、ヨシヅヤ大口店を經由する路線の新設、および同店敷地内へのバス停新設を予定している。
- ・新設する路線を使用する車両は「日野ポンチョ」であり、車両サイズなどの規格は資料1ページに記載している。なお、路線の新設、廃止に係る詳細は、資料3ページに記載している。
- ・本協議事項に関しては、道路管理者である愛知県一宮建設事務所、大口町維持管理課、ならびにバス停設置予定の株式会社義津屋と個別に調整を進めている。
- ・今回の路線の新設およびバス停の新設に伴い、既設の河内屋新田バス停とヨシヅヤ大口店新設バス停との区間、ならびにヨシヅヤ大口店新設バス停から既設の替地バス停までの区間を含む2河内屋線の運賃料金については、道路運送法に基づく協議運賃とするため、道路運送法第9条第5項に定められている「住民・利用者・利害関係者等の意見を反映させるための必要な措置」として、令和7年6月26日から7月16日までの間に、大口町のホームページ上で意見募集を実施した。本日の会議後に開催される「大口町地域公共交通推進会議運賃部会」において、運行事業者であるあおい交通株式会社より運賃についての協議をさせていただきたいと考えている。

■報告事項について

- ・2河内屋線について
小牧市北西部の河内屋区、入鹿区の住民が目的地に応じてこまき巡回バスを使い分けできるよう、横内バス停より西側のルートを右回り左回りで交互運行する予定をしている。それに伴い、大口町内に既設

の替地バス停の対面に新たに（仮称）替地バス停を新設する予定である。また、小牧市内においてルートの一部延伸があるため、それに応じて既設の替地バス停の運行ダイヤが変更となる予定である。

- ・ H 2 三ツ渚北線について

運転手不足や利用者の利便性を観点から、H 1 舟津線と H 2 三ツ渚北線を統合し、右回り左回りで交互運行とするルート変更を行う。この変更により、大口町内にある既設の東海理化前バス停の対面に（仮称）東海理化前バス停を新設する予定である。ルート変更に伴い既設の東海理化前バス停の運行ダイヤが変更となる予定である。

- ・ H 3 村中線について

今回の再編では、これまで接続していた H 4 間々原線を廃止し、新たに 5 小牧原線との接続を予定している。この変更に伴い、大口町内の藤ノ木橋バス停の運行ダイヤが変更となる予定である。

- ・ 今後のスケジュールについて

令和 8 年 4 月に再編運行を予定していることから、それに間に合うように準備を進めている。本年 10 月頃に再編後のルート、バス停、ダイヤなどの内容について、小牧市地域公共交通会議や小牧市地域公共交通運賃料金協議会にて協議を整えたいと考えている。協議完了後は、道路運送法の許可に向けた手続きを進めていきたいと考えている。

<質疑応答>

【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

確認するが、今回の協議に係る部分は大口町内を走るルートおよびバス停の変更に関する協議であるという理解でよいか。

→ 【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

今回の 3 路線のうち、協議事項となるのは 2 河内屋線のみである。2 河内屋線の中でも協議事項と報告事項があり、協議事項の一つ目は 2 河内屋線の路線の新設およびバス停の新設。路線の新設は、先ほど説明したヨシヅヤ大口店を経由する部分である。二つ目は、新設する路線で使用する車両の最大サイズである。

→ 【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

小牧市内で様々な変更があるが、そのうち大口町を通る部分のルート変更、車両サイズは協議事項である。ただし、その路線を使う場合には小牧市内のルート変更も影響があるため、それについても併せて報告をいただいたということで良いか。スケジュールについては、小牧市ではまだ承認を得ていないが、大口町は公共交通会議の次回開催が 1 月で遅いため、今回ここで先に承認を得たいという理解でよいか。

→ 【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

小牧市での協議はまだこれからである。ただし、ルート案については本日表示すにあたり、昨年度から小牧市の地域公共交通会議で事前協議の形で議論を重ねている。最終的には今年 10 月に予定されている小牧市地域公共交通会議で協議を整えたいと考えている。

→ 【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

ダイヤ変更について、具体的には未決定と思うが、本数が大幅に減る、あるいは増えるなど大きな変更予定はあるか。

→【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

今回の再編におけるダイヤ改正の方針は、利用しやすいダイヤとし、定時性を保持できるものとする
ことである。一方で、運転手不足の関係から便数は減少する見込みであるが、減便する路線でも利用
状況を踏まえ適切な運行間隔を検討し、可能な限りサービス水準の維持に努める考えである。現時点
は案の段階だが、例として再編後の2河内屋線は1便当たりの運行時間を約73分とし、現在より17
分延長する計画である。これに伴い、ダイヤの運行時間帯に関わるが、2河内屋線は朝6時台から夜
19時台までの運行を予定しており、現状の運行時間帯は維持できる見込みである。運行便数は、現
在の11便から9便に2便減少する予定である。1便の運行時間が17分延びることで、単純計算で
10便あれば170分延長となり、運行時間の延長により便数減少が想定されている。具体的なダイヤ
はルート協議後に検討を進める予定である。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

ヨシヅヤのバス停を通るのは乗り継ぎ利便性向上のためと理解したが、ヨシヅヤで降りて買い物する
利用者の想定はあるのか。

→【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

ヨシヅヤ大口店への経由目的は、隣接市町との連携強化にある。先ほど大口町の地域公共交通計画策
定の際にも話題に出たが、小牧市でも地域公共交通計画を策定しており、その中で隣接市町コミュ
ニティバスとの連携強化の目標を掲げている。そういった中でこれまでも本市のコミュニティバスは
大口町に乗り入れていた。ヨシヅヤ大口店に運行している大口町コミュニティバスは名鉄犬山線の
布袋駅と江南駅の両方に接続しているが、こまき巡回バスはこれまで替地バス停や東海理化前バス
停を通じ布袋駅方面への接続のみであった。今回ヨシヅヤ大口店へ乗り入れることで、布袋駅に加え
江南駅への接続も増え、連携強化を図るものである。小牧市北西部の住民は名鉄小牧線を利用するこ
ともあるが、どちらかというとな名鉄犬山線に近いと、そちらを利用したいという要望もある。これ
に応える形で接続を強化することに加え、現在も替地バス停を設置しており、再編後も継続する。具
体的な利用状況においてヨシヅヤ大口店を利用するかは再編後に検証が必要だが、最寄りバス停か
らヨシヅヤ大口店へ向かう利用も見込んでいる。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

以前からこまき巡回バス「こまくる」について疑問があった。「こまくる」は65歳以上の利用が無料と
なっているが、大口町や近隣市町でも65歳以上の利用者が多い中で、そこを無料に設定するのは小牧
市では年齢問わず幅広く利用されているからか。

→【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

こまき巡回バスの料金体系は、大人1日あたり200円、小学生は1日あたり100円である。1日料
金のため片道・往復の概念がなく、一度支払えば何度でも乗車可能である。満65歳以上、未就学児、
身体障害者手帳提示者等は料金免除で、支払いは不要である。利用実態では小牧市も大口町と同様、
65歳以上の利用者が多く、約6割を占めている。割合の変動はあるが、高齢者が多く利用している
状況であることから高齢者の足を確保して自家用車から公共交通への利用の転換を積極的に図って
いくことを主な目的の1つとして実施している。

【鈴木委員（大口町議会議員）】

替地バス停で皆さんが時々乗ることは噂で聞いており、ルートを拝見すると良いルートだと感じた。今回ヨシヅヤまで乗り入れることで利便性が大きく向上し嬉しい限りである。これまで替地バス停やリンナイ周辺で、大口町民の利用者数は把握できているか。大まかな数でもよいので教えてほしい。

→【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

大口町民の具体的な乗車人数データは収集できていない。参考に令和6年度の替地バス停の利用状況は、乗車人数は年間417人、降車人数は1,097人で、降車者が多い状況である。過去3年を見ると令和4年度はコロナの影響もあり乗車人数は300人台だったが、令和5年度に400人台に増加し、横ばいで推移している。降車人数も令和5年度に増加し維持されているため、一定数の利用がある状況である。

【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

65歳以上を無料にしているのは、コミュニティバスの収支問題ではなく、無料化により高齢者の移動促進と賑わい創出を目的とし、公的資金投入が望ましいという考え方によるものか。

→【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

こまき巡回バスは、小牧市内の交通空白地域、すなわちバス・鉄道・タクシーなど交通手段がない地域の解消と公共施設の利用促進を主な目的とし運行している。交通空白地域解消のため、小牧市内には一定間隔で徒歩圏内にバス停を設置している。収支よりも積極的な利用促進を重視し、市民の移動手段として定着させることを目的としている。

→【松尾会長（豊橋技術科学大学）】

素晴らしい考え方である。形式上の質問だが、先ほど替地バス停の対面に新たに1基設置するとあったが、その点について江南警察への確認は済んでいる理解でよいか。

→【意見参考人 服部氏（小牧市都市整備課）】

町道の道路管理者との協議は説明済みであり、また本日出席の江南警察署には事前説明し了承を得ている。今後設置位置等の確定後、必要な手続きを進めていく予定である。

＜承認結果＞

全会一致で案のとおり承認

5 その他

【事務局 大森】

■東海理化前バス停の移設について

- ・今年秋頃より株式会社東海理化の建て替え工事が始まる。工事に伴い、現在バス停が設置されている場所が車両の出入り口になるため使用できなくなる。そのため、安全かつ円滑な運行を確保するためにバス停の移設を行う。
- ・移設先は、現在のバス停から東へ約 120 メートルの位置、大口町豊田三丁目 260 番地先。バスの運行上も安全が確保でき、歩行者の通行にも配慮した位置である。
- ・移設の時期は、令和 7 年 9 月中を予定。10 月頃から工事が始まるため、それに先立ってバス停の移設を完了させる計画。
- ・事前に、大口町維持管理課（町道の道路管理者）および江南警察署交通課より「支障なし」との確認を受けている。
- ・移設に伴い、道路沿いに設置されているガードパイプについて、現在のバス停設置箇所では、ガードパイプの封鎖が必要。新たなバス停設置箇所では、ガードパイプの開口が必要となる。これらの工事もあわせて実施し、安全かつ利便性の高い乗降環境を整備する。

■愛知県新モビリティサービス推進事業（MaaS 実証事業）について

- ・MaaS とは「Mobility as a Service」の略で、複数の交通手段を検索・予約・決済までが一括で利用できるサービスを指す。
- ・この事業は、コミュニティバスを中心に移動の利便性を高め、地域間の移動を活性化することを目的としている。近隣の 5 市町村（小牧市、犬山市、北名古屋市、豊山町、大口町）が連携し、地域に根ざした MaaS アプリを導入するモデル事業である。国土交通省の補助金を活用し、公共交通の利用促進を目指す。
- ・事業内容は大きく 2 つ。1 つ目は、経路検索、バス運行情報、デジタルチケット販売、地域情報提供などの機能を備えた MaaS アプリの構築。2 つ目は、コミュニティバスの利用データを集積・分析するデータプラットフォームの構築。
- ・委託事業者はトヨタファイナンスサービス株式会社で、スケジュールに沿ってシステム開発・運用を進め、9 月頃から約 3 か月間の実証実験を行う予定である。
- ・実証実験後に本格導入されるかは未定だが、現時点でこのような取組が進んでいることを、ご承知おきいただきたい。

【前田委員（コミュニティバスサポート隊）】

アンケートの中にデマンド交通に関する項目がある。私の周囲でも「デマンド交通は便利だから導入してほしい」という声が多く聞かれ、コミュニティバスよりも優れているという印象を持っている人も意外に多い。

しかし、犬山市ではデマンド交通の実証実験を実施したものの、利用者が極めて少なかったという事例がある。地域懇談会を開催した際には、「登録が面倒」「予約が面倒」といった意見が多く出され、結果

として実証実験のみで終了してしまった。

大口町が今後どのような方向に進むのかはわからないが、アンケート結果だけに頼らず、地域懇談会等により丁寧な聞き取りを行い、デマンド交通に関する行政側の意見と住民側の意見とを十分に交換する機会を設けるべきである。デマンド交通については、少し慎重な姿勢が求められると考える。

次に、バス協会の徳田さんとあおい交通さんに伺いたい。私自身、いつまで車を運転できるかわからなくて本当に今後の公共交通に不安を抱いている。最近バスの運転手の募集広告を頻繁に目にするようになったが、実際に運転手が増加しているのかについて、バス協会としての見解を伺いたい。

また、あおい交通さんに関しては、あくまで私の印象であるが、近隣の小牧市や犬山市と比べて、大口町のドライバーは少し高齢化が進んでいるように感じている。今後、大口町が継続的にコミュニティバスの運行を行っていく場合、ドライバーの確保が将来的に課題となるのではないかと懸念している。

→【徳田氏（愛知県バス協会 小林委員 代理）】

バス協会として詳細な数値は把握していないため、感覚的な発言になることをあらかじめお詫び申し上げます。運転手が増加しているかどうかについてであるが、現在、事業者や自治体において様々な取り組みがなされており、新規採用者は一定程度増えていると聞いている。

しかしながら、入口を広くした結果、入社後すぐに辞めてしまうケースも少なくなく、採用人数ほど実質的な増加にはつながっていないというのが実情である。さらに、それ以前の問題として今後の免許を持った人たちの数がどんどん先細りしていく。バスの運転手になりたいと思う方が一定の人数いたとしても、免許を持っている人や、これから免許を取る若い人が今の人口からどんどん減っていくため、確実に免許を持ってバスの運転業務にあたっていただける方が、これから増えていくことは見込みにくい。このような状況の中で、各事業者は働き方の多様化を進めている。かつてはお金を稼ぐためにどんどん仕事をやってという方が多かったが、現在はパートタイマーのように朝だけとか午後だけとか、これまではなかった形の働き方も取り入れている。引退後の高齢者や子育てが一段落した女性などが、こうした働き方で新たに挑戦しているケースも多く見られる。したがって、完全に悲観しているわけではないが、決して楽観できる状況でもない。自動運転技術の進展についても期待されているが、実用化にはまだ時間がかかると考えている。バス協会としては、従来は年1回であった合同就職説明会を、昨年からは年2回に増やし、春にも開催している。来場者はおおむね100名程度であり、そのうち一定数は採用につながっている。

このような取り組みを今後も継続していく予定であるので、周囲にバス運転手として関心のある方がいれば、ぜひバス会社をご紹介いただきたい。どの事業者も歓迎すると思うのでよろしくお願いしたい。

→【松浦委員（あおい交通株式会社）】

バス会社にはさまざまな種類があり、先ほどバス協会の徳田さんが述べられたように、観光バスや大型バス、深夜の高速バスなどは、若年層でなければ従事が難しい面もあり、これらの分野では募集も少ないかと思われる。一方、当社が主に取り組んでいるのは、地域を巡回するコミュニティバスであり、小型バスの運行が中心である。そのため、大手バス会社で経験を積んだ方々が第2の職場として転職してくるケースが多い。

このような事情から、募集を行えば50代、60代の応募者が比較的多く集まりやすく、バス会社の種類やバス会社の運行内容によって事情が異なる。第2の職場として地域のコミュニティバス運転手

を選ぶ人が多いため、当社としては常時募集を行っているが、応募者数は一定数あり、今後も安定的にドライバーを確保できるのではないかと考えている。

【事務局 大森】

最後に、事務局から一点報告させていただく。先ほど小牧市の説明の中でも言及があったが、本会議終了後に「第1回大口町公共地域交通推進会議運賃部会」を開催する予定である。

これは、令和5年の10月1日に施行された道路運送法の改正により、運賃に係る協議は独占禁止法上の問題を避けるために、地域交通推進会議とは別の協議体で実施する必要があると定められたことを受けたものである。大口町では設置条例に基づき、地域交通推進会議の内部に「運賃部会」を新たに設置し、今後は運賃部会において運賃の協議を行っていくこととなる。今回の議題は先ほど承認された「小牧巡回バスの大口町の乗り入れにかかる運賃協議」である。部会の構成員は、大口町長またはその指名する者、当該運賃を定めようとする一般旅客自動車運送事業者、中部運輸局愛知運輸支局長またはその指名する者、住民または利用者の代表で構成される。本日配布した委員名簿の右側欄外に「運賃部会」と記載されている方々が、運賃部会の構成員となるため、該当の方は引き続きご参加いただきたい。